

arcserve®

 SB C&S

Arcserve UDP Cloud Hybrid 検証レポート

第 1 版

改版履歴

版数	発効日	変更箇所	変更内容
1	2020/10/21		新規作成

「Arcserve UDP Cloud Hybrid 検証レポート」

発行者: SB C&S株式会社

文中の製品名および会社名は、各社の商標または登録商標です。
内容に関する、無断複製・譲渡・転載・変更・修正を禁じます。

目次

1. はじめに.....	- 2 -
1.1. 本書の目的	- 2 -
1.2. 本書の記述・定義範囲	- 2 -
1.3. 参考文献	- 3 -
2. 製品概要	- 4 -
2.1. Arcserve UDP Cloud Hybrid	- 4 -
3. 検証環境	- 5 -
3.1. 論理構成	- 5 -
3.2. 機器スペック.....	- 6 -
4. 設定手順	- 7 -
4.1. Arcserve UDP Cloud コンソールへの接続.....	- 7 -
5. Arcserve UDP Cloud Hybrid へのバックアップデータ保存設定	- 9 -
5.1. レプリケートプランの作成.....	- 9 -
5.2. バックアップデータのレプリケート設定	- 13 -
6. リストア	- 16 -
6.1. ファイル/フォルダレベルリストア(Windows).....	- 16 -
6.2. ファイル/フォルダレベルリストア(Linux)	- 20 -
6.3. インスタント VM	- 23 -
6.4. 仮想スタンバイ.....	- 28 -
6.5. Arcserve UDP Cloud Hybrid からのリバースレプリケート	- 32 -
7. その他の機能	- 38 -
7.1. Arcserve UDP Cloud Hybrid との VPN 接続	- 38 -
7.2. アシユアードリカバリ	- 39 -
7.3. Microsoft Office 365 のバックアップ	- 42 -
8. 総評	- 43 -

1. はじめに

1.1. 本書の目的

本書は、Arcserve UDP Cloud Hybrid の概要説明、および設定手順を記載しています。

1.2. 本書の記述・定義範囲

使用されるすべてのハードウェアおよびソフトウェアの名前、ロゴは、それぞれのメーカーの商標です。

本ドキュメントの著作権はSB C&S株式会社(以下弊社)に帰属します。本ドキュメントすべて、またはその一部を複製や再配布することは禁じられています。

本ドキュメントは、弊社にて把握、確認された内容を基に作成したものであり、お客さま環境や製品機能の仕様や動作について担保・保証するものではありません。

本ドキュメントの利用に関し、トラブルが発生した場合、利用者または第三者に損害が生じた場合であっても、本ドキュメントは利用者の自己責任のもと利用されているものであることを鑑み、弊社は損害賠償その他一切の責任を負いません。

本書の内容に対するテクニカルサポートは提供していません。

本書の内容は作成日のドキュメント、機器環境に基づきます。ソフトウェアのアップデートなどにより、操作手順が本書記載の内容から変更されることがあります。

本書に記載した URL は予告無く変更されることがあります。

1.3. 参考文献

・Arcserve UDP Cloud Hybrid スタートアップガイド

<https://www.arcserve.com/wp-content/uploads/2019/09/uch-startup-guide1.pdf>

・よくあるご質問と回答 : Arcserve UDP Cloud Hybrid

<https://www.arcserve.com/wp-content/uploads/2019/08/uch-faq.pdf>

・Arcserve UDP Cloud Hybrid 注意/制限事項

<https://support.arcserve.com/s/article/2019082201?language=ja>

2. 製品概要

2.1. Arcserve UDP Cloud Hybrid

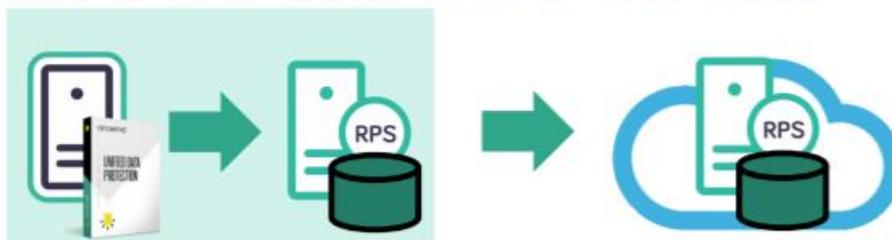
Arcserve UDP Cloud Hybrid(以下 Cloud Hybrid)は Arcserve 社が提供するクラウドサービスで、オンプレミス環境にある Arcserve UDP からバックアップデータを Arcserve が運営するクラウドへレプリケート(転送)することで、自然災害等のサイト障害からデータを守り、システムを継続利用することを実現します。

また、課金体系についても容量毎のサブスクリプションで提供されており、従量課金型で多く寄せられる実際のコスト感がわかりづらいといった問題も発生いたしません。

利用方法として、大きく『BaaS』『DRaaS』の2つのシナリオがあり、遠隔地にデータ保管ができていればいい、または有事の際は遠隔地でサービス継続が必要といったニーズにも対応することが可能となっております。

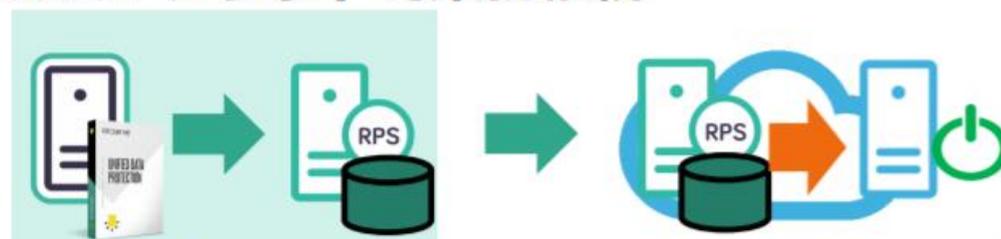
※DRaaS サービス利用には別途コンピュータリソースの契約が必要となります。

BaaS: クラウドにバックアップ転送



- ✓ バックアップデータの二次保管先として
- ✓ O365の一次バックアップ先として

DRaaS: クラウドで業務継続

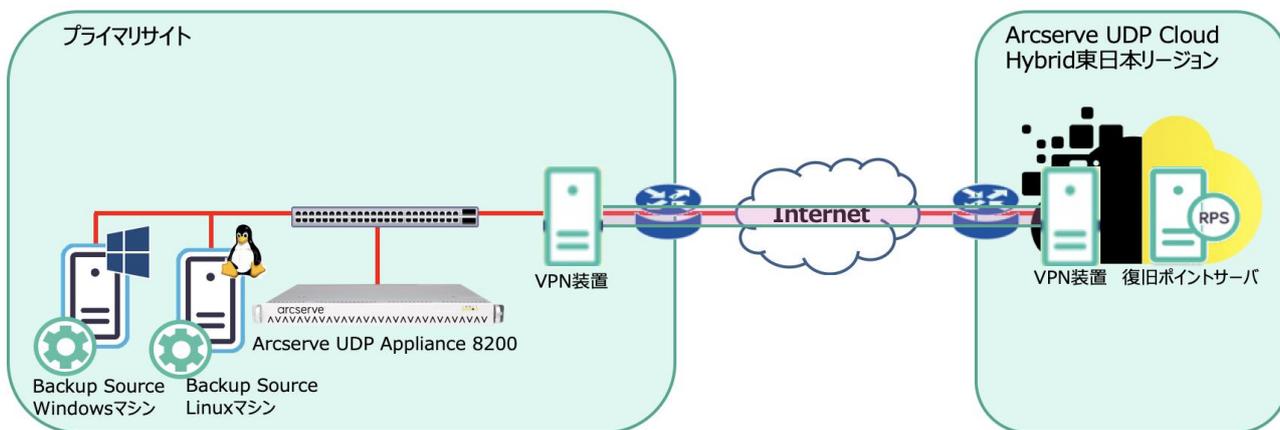


- ✓ 災対サイトとしてクラウドを手軽に利用

3. 検証環境

3.1. 論理構成

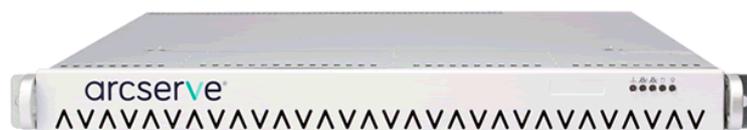
今回の検証におけるシステム環境は以下となります。



3.2. 機器スペック

Arcserve UDP Appliance 8200

製品名	Arcserve UDP Appliance 8200
SW バージョン	バージョン 7.0.4455 update2 ビルド 634
CPU	1 × 8core
メモリ	32GB
筐体内ディスク	12TB(RAID5)
NIC	1GbE × 2



Arcserve UDP Appliance 8200

Windows クライアント端末

OS バージョン	Windows 10 Enterprise
CPU	1 × 2core
メモリ	8GB
ストレージ	ハードディスク 1 : 60GB
	ハードディスク 2 : 400GB

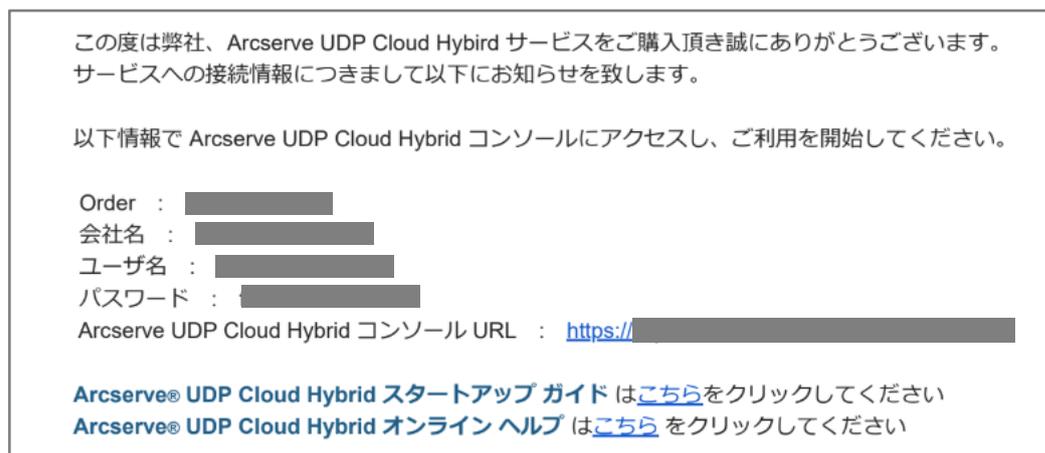
Linux クライアント端末

OS バージョン	Cent OS Linux release 7.6.1810
CPU	1 × 2core
メモリ	8GB
ストレージ	ハードディスク 1 : 60GB
	ハードディスク 2 : 400GB

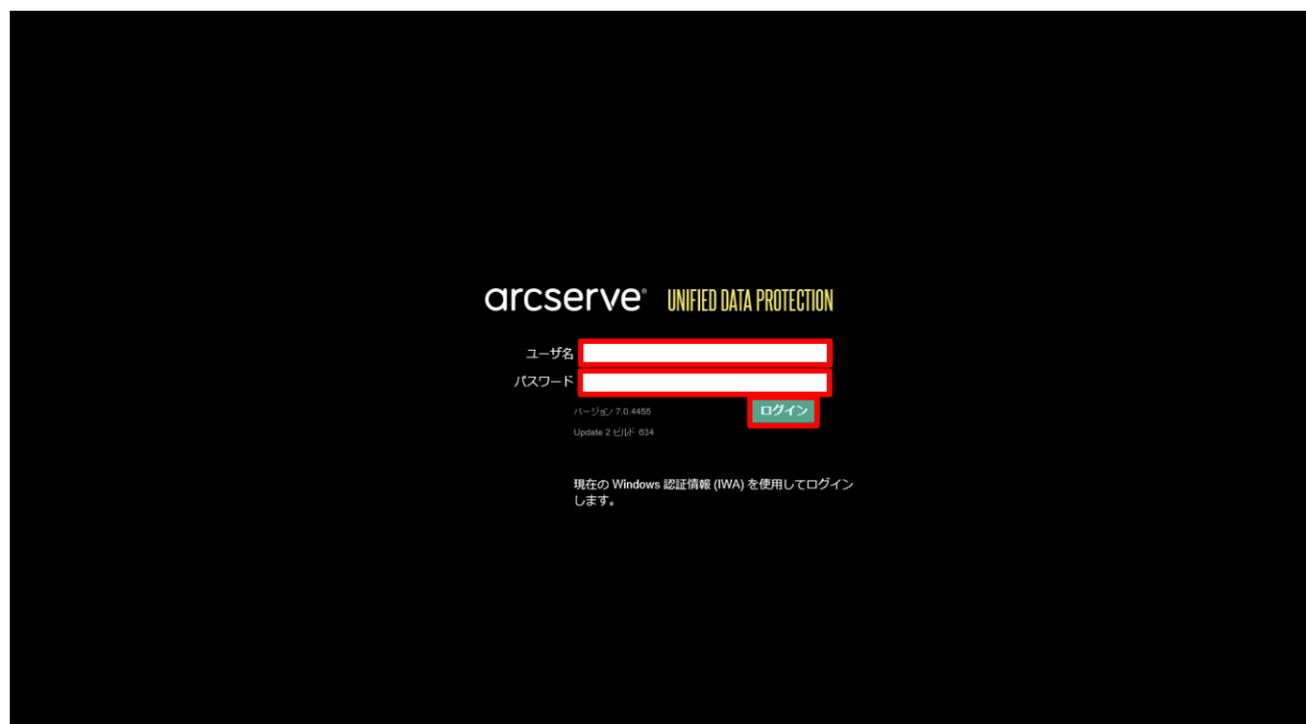
4. 設定手順

4.1. Arcserve UDP Cloud コンソールへの接続

1. Arcserve UDP Cloud 購入後、Arcserve から送信される『Arcserve UDP Cloud Hybrid サービス接続情報のお知らせ』という件名のメールに記載されている情報を確認します。この情報をもとに Arcserve UDP Cloud コンソールへの接続設定を行います。



2. 『Arcserve UDP Cloud Hybrid コンソール URL』に記載の URL をクリックし、『ユーザ名』『パスワード』を入力し、『ログイン』をクリックします。



3. 『リソース』タブから、『デスティネーション』→『復旧ポイントサーバ』と選択することで、復旧ポイントサーバ(RPS)とデータストアが作成されていることを確認します。

The screenshot shows the Arcserve Unified Data Protection dashboard. The 'Resources' tab is selected and highlighted with a red box. The breadcrumb path is 'Destinations: Recovery Point Server'. The left sidebar shows a tree view with 'Recovery Point Server' selected. The main content area displays a table of destinations.

アクション			
名前	ステータス	プラン数	
chj-softbankcu1.arcserve1.com			
arcstore01	✓	3	

4. 『リソース』タブから、『すべてのプラン』を選択することで3つのレプリケートプランが作成されていることを確認できます。こちらはデフォルトで用意されているプランとなり、あらかじめ共有設定が施されており、オンプレミス環境のRPSからArcserve UDP Cloudへのレプリケートに利用することができます。

The screenshot shows the Arcserve Unified Data Protection dashboard. The 'Resources' tab is selected and highlighted with a red box. The breadcrumb path is 'Plans: All Plans'. The left sidebar shows a tree view with 'All Plans' selected. The main content area displays a table of plans.

プラン名	合計	保護ノード			ステータス
		✓	!	✗	
レプリケート (31D 1W 1M 1C)	0	0	0	0	変更
レプリケート (5D 1W 1M 1C)	2	2	0	0	作成済み
レプリケート (7D 5W 12M 31C)	0	0	0	0	作成済み

5. Arcserve UDP Cloud Hybrid へのバックアップデータ保存設定

5.1. レプリケートプランの作成

先の手順にて確認したレプリケートプランと異なるレプリケートプラン新規作成手順を解説いたします。

1. Arcserve UDP Cloud コンソールにログインし、『リソース』タブから『プラン』→『すべてのプラン』を選択し、『プランの追加』を選択します。

arcserve® UNIFIED DATA PROTECTION

ダッシュボード **リソース** ジョブ レポート ログ 設定

プラン: すべてのプラン

アクション | **プランの追加**

プラン名	合計	保護ノード			ステータス
		✓	!	✗	
レプリケート (31D 1W 1M 1C)	0	0	0	0	変更
レプリケート (5D 1W 1M 1C)	2	2	0	0	作成済み
レプリケート (7D 5W 12M 31C)	0	0	0	0	作成済み

2. 『タスクの追加』を選択し、タスクの種類のパルダウンメニューより、『リモートで管理されている RPS へのレプリケート』を選択します。

arcserve® UNIFIED DATA PROTECTION

ダッシュボード **リソース** ジョブ レポート ログ 設定

プランの追加

New_Replicate_Plan このプランを一時停止

タスク1

タスクの種類

+

タスクの追加

- バックアップ: Office 365 Exchange Online
- バックアップ: Office 365 OneDrive
- バックアップ: Office 365 SharePoint Online
- バックアップ: UNC または NFS パス上のファイル
- バックアップ: エージェントベース Linux
- バックアップ: エージェントベース Windows
- バックアップ: ホストベース エージェントレス
- リモートで管理されている RPS からレプリケート**

5. Arcserve UDP Cloud Hybrid へのバックアップデータ保存設定

- 『デスティネーション』タブを選択肢し、データストアを選択します。

The screenshot shows the Arcserve Unified Data Protection web interface. The top navigation bar includes 'ダッシュボード', 'リソース', 'ジョブ', 'レポート', 'ログ', and '設定'. The main content area is titled 'プランの追加' and contains a form for configuring a replication plan. The 'タスクの種類' dropdown is set to 'リモートで管理されている RPS からレプリケート'. The 'ソース' tab is selected, and the 'デスティネーション' tab is highlighted with a red box. The 'データストア' dropdown is set to 'arcstore01' and is also highlighted with a red box. Other fields include '復旧ポイント サーバ' (chj-sbcscorp1.arcserve1.com), 'サーバは NAT ルータの後方にあります' (unchecked), 'ホスト名/IP アドレス', and 'ポート' (8014).

- 『スケジュール』タブを選択し、任意のスケジュールを設定した後、『保存』を選択し設定を完了します。

The screenshot shows the Arcserve Unified Data Protection web interface with the 'スケジュール' tab selected and highlighted with a red box. The '保存' button is also highlighted with a red box. Below the tabs, there is a table for selecting a backup schedule:

リサイクル	説明	日	月	次	*	本	金	土	日	時刻
復旧ポイントの保存	日/ガリクアップ									7
	週/ガリクアップ									5
	月/ガリクアップ									12
	カスタム/手動/ガリクアップ									31

5. Arcserve UDP Cloud Hybrid へのバックアップデータ保存設定

5. 『リソース』タブから、『プラン』→『すべてのプラン』を選択し、先程作成したレプリケートプランが追加されていることを確認します。

The screenshot shows the Arcserve Unified Data Protection interface. The top navigation bar includes 'ダッシュボード', 'リソース', 'ジョブ', 'レポート', 'ログ', and '設定'. The 'リソース' tab is active, and the 'プラン: すべてのプラン' view is selected. The left sidebar shows a tree view with 'プラン' expanded and 'すべてのプラン' selected. The main content area displays a table of plans with columns for 'プラン名', '合計', '保護ノード' (with sub-columns for success, warning, and error), and 'ステータス'.

プラン名	合計	保護ノード			ステータス
		✓	!	✗	
New Replicate Plan	0	0	0	0	✓ 作成済み
レプリケート (31D_1W_1M_1C)	0	0	0	0	✓ 変更
レプリケート (5D_1W_1M_1C)	2	2	0	0	✓ 作成済み
レプリケート (7D_5W_12M_31C)	0	0	0	0	✓ 作成済み

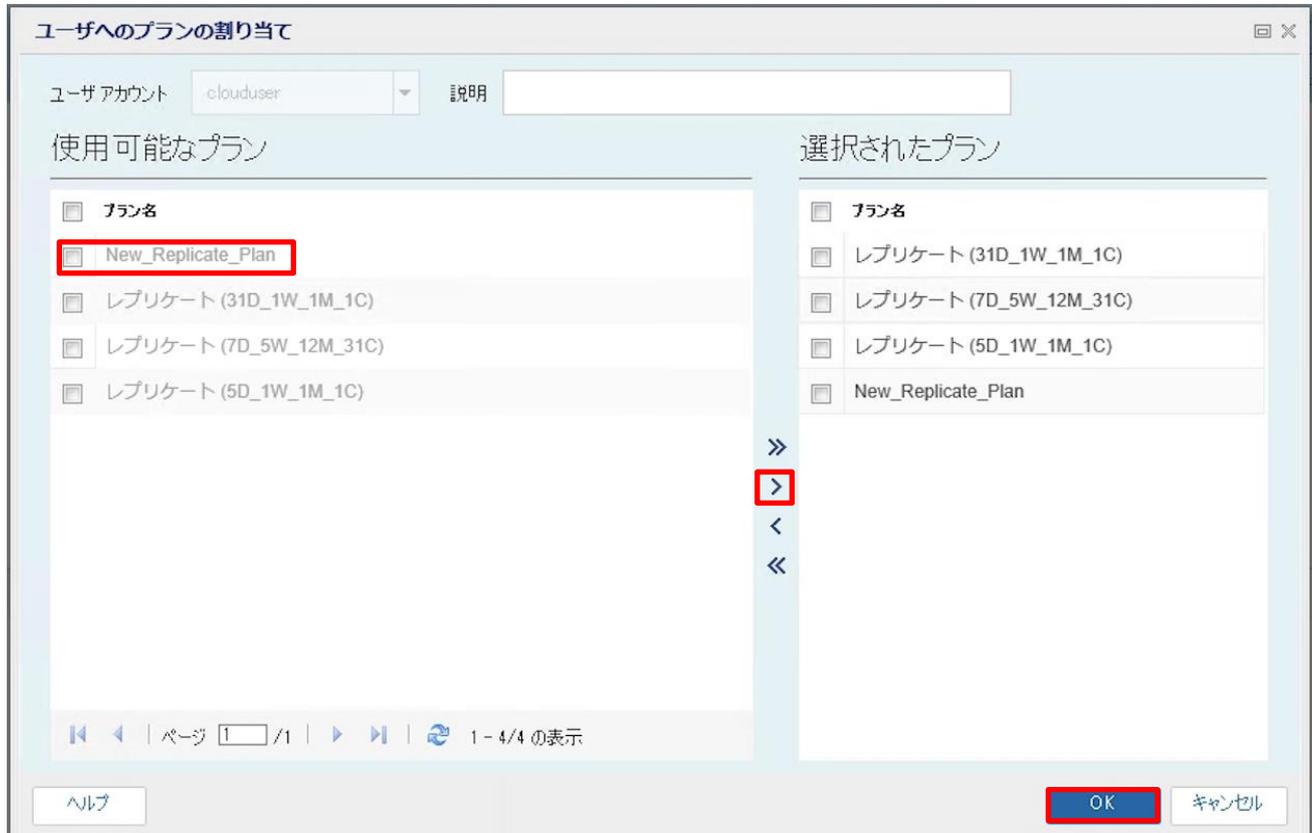
6. 作成したプランはデフォルトで作成されているプランと異なり、共有設定が施されておりません。オンプレミス環境の RPS から Arcserve UDP Cloud へのレプリケートに利用する為に作成したプランを共有する必要があります。
『設定』タブより、『共有プラン』を選択し、編集をクリックします。

The screenshot shows the Arcserve Unified Data Protection interface with the '設定' (Settings) tab active. The left sidebar shows '共有プラン' selected. The main content area displays a table of shared plans with columns for 'ユーザーアカウント', '説明', and 'プラン'.

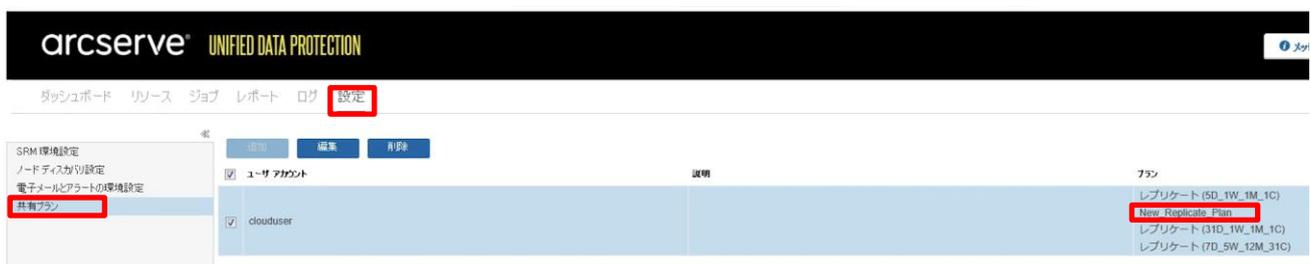
ユーザーアカウント	説明	プラン
clouduser		レプリケート (31D_1W_1M_1C) レプリケート (7D_5W_12M_31C) レプリケート (5D_1W_1M_1C)

5. Arcserve UDP Cloud Hybrid へのバックアップデータ保存設定

- 『使用可能なプラン』より作成したプランにチェックを入れ、画面中段の矢印マークを選択します。作成したプランが画面右側の『選択されたプラン』に移行したことを確認し、『OK』をクリックします。



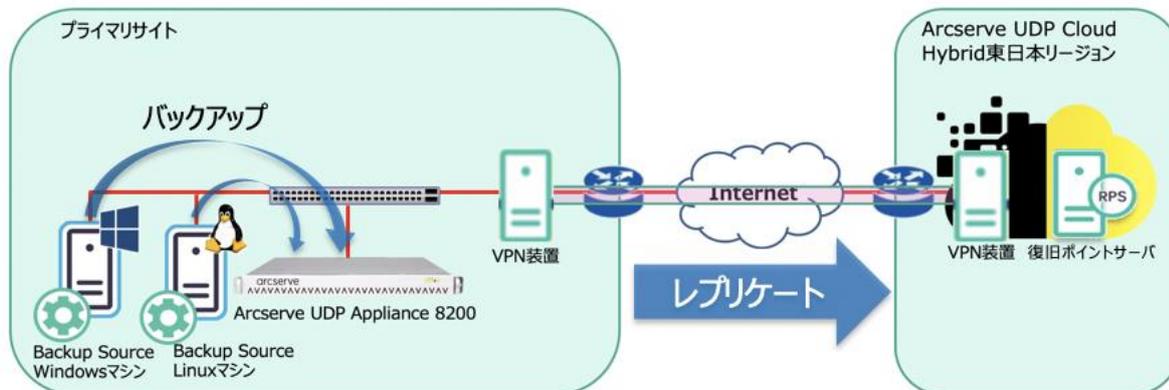
- 『設定』タブより、『共有プラン』を選択し、画面右に表示される『プラン』に作成したプランが追加されていることを確認します。



以上で、レプリケートプランの作成は完了となります。

5.2. バックアップデータのレプリケート設定

本説では、プライマリサイトの Arcserve UDP Appliance 保存されたバックアップデータを、Arcserve UDP Cloud へレプリケートする手順を解説いたします。



1. プライマリサイトの Arcserve UDP Appliance のコンソールにログインし、『リソース』タブから、『プラン』→『すべてのプラン』を選択し、レプリケート対象のプランをクリックします。

arcserve UNIFIED DATA PROTECTION

ダッシュボード リソース ジョブ レポート ログ 設定 | ハイ アベイラビリティ

≪ プラン: すべてのプラン

ノード

- すべてのノード
- プランのないノード
- Linux ノード
- ▶ プラングループ
- ▲ Linux バックアップ サーバグループ
 - linux-backupsvr
- ▲ プラン
 - すべてのプラン

アクション ▼ | プランの追加

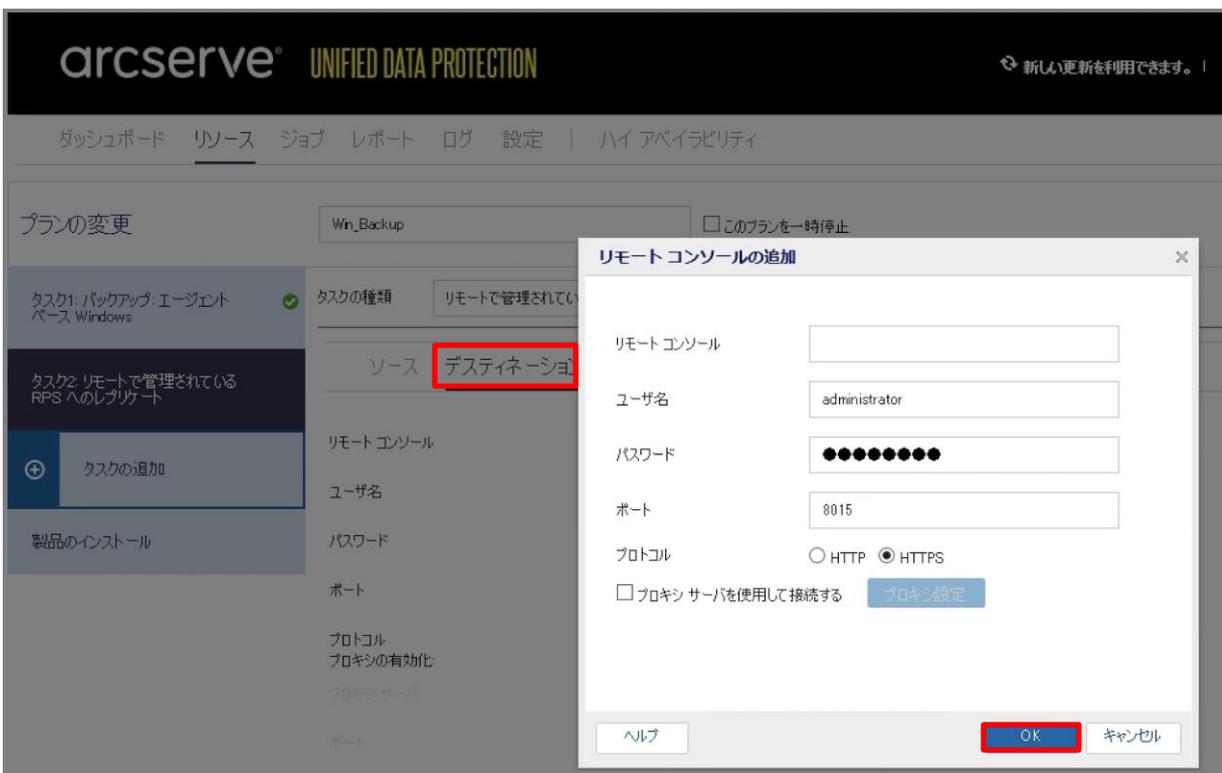
プラン名	合計	保護ノード			ステータス
		✓	!	✗	
<input type="checkbox"/> Linux Backup	1	0	0	1	✓ 変更: 成功 (1)
<input checked="" type="checkbox"/> Win Backup	1	1	0	0	✓ 変更: 成功 (1)

5. Arcserve UDP Cloud Hybrid へのバックアップデータ保存設定

- 『タスクの追加』を選択し、プルダウンメニューより『リモートで管理されている RPS へのレプリケート』を選択します。



- 『デスティネーション』タブを選択し、リモートコンソールウィンドウ横の『追加』をクリックします。別途立ち上がる『リモートコンソール追加』ウィンドウに Arcserve Cloud Hybrid 情報を入力し、『OK』を選択します。



5. Arcserve UDP Cloud Hybrid へのバックアップデータ保存設定

- 『リモートコンソール追加』ウィンドウに Arcserve Cloud Hybrid 情報を入力後、『接続』をクリックし、Arcserve Cloud Hybrid との接続を確立します。
画面を下にスクロールし、『プラン』右のプルダウンメニューから適用するプランを選択し、保存をクリックします。

The screenshot shows the Arcserve Unified Data Protection (UDP) configuration interface. The main heading is 'プランの変更' (Change Plan). The current plan is 'Win_Backup'. There are buttons for '保存' (Save), 'キャンセル' (Cancel), and 'ヘルプ' (Help). The configuration fields include:

- ユーザー名 (Username): clouser
- パスワード (Password): [Redacted]
- ポート (Port): 8015
- プロトコル (Protocol): HTTPS
- レプリケート (Replicate): [Redacted]
- レプリケーションジョブが失敗したとき (When replication job fails):
 - 再試行開始 (Retries start): 10 分後 (1 ~ 60)
 - 再試行 (Retries): 3 回 (1~99)

Copyright © 2014-2019, Arcserve (USA), LLD and its affiliates and subsidiaries. All rights reserved. UTC+09:00 (日本標準時)

以上で Arcserve UDP Cloud へのレプリケート設定は完了となります。
これにより、次回バックアップ完了後、Arcserve UDP Cloud へレプリケートが行われます。
初回のレプリケートはフルバックアップ相当量のデータ転送が行われるのでご注意ください。

6. リストア

Arcserve UDP Cloud Hybrid へレプリケートしたバックアップデータから様々なリストアが可能となりますが、以下の図のように、バックアップ方式、対象の OS によって、利用できる機能に違いがございます。

Linux マシンに関しては、別途コンピュータリソースを契約することで、Arcserve UDP Cloud Hybrid 環境上にファイル/フォルダ単位のダウンロード機能を利用することができます。

バックアップ方式	Windows		Linux	
	エージェント	エージェントレス	エージェント	エージェントレス
プライマリサイトへの復旧	ファイルレベル リバースレプリケート		リバースレプリケート	
インスタントVM	○	○	○	○ ※Hyper-V環境のみ
仮想スタンバイ	○	○	X	X

以下にて、リストアシナリオごとの操作手順をご説明いたします。

6.1. ファイル/フォルダレベルリストア(Windows)

1. Arcserve UDP Cloud Hybrid コンソールから、『リソース』タブより、『デスティネーション』を選択し、データストアを選択した後、『復旧ポイントの参照』をクリックします。



- 『サマリ』画面より、リストア対象のノードにカーソルを合わせ、右クリックし、リストアをクリックします。



- 別ウィンドウが立ち上がるので、リストア方式を選択します。
※本件では『復旧ポイントの参照』よりリストアを実行します。



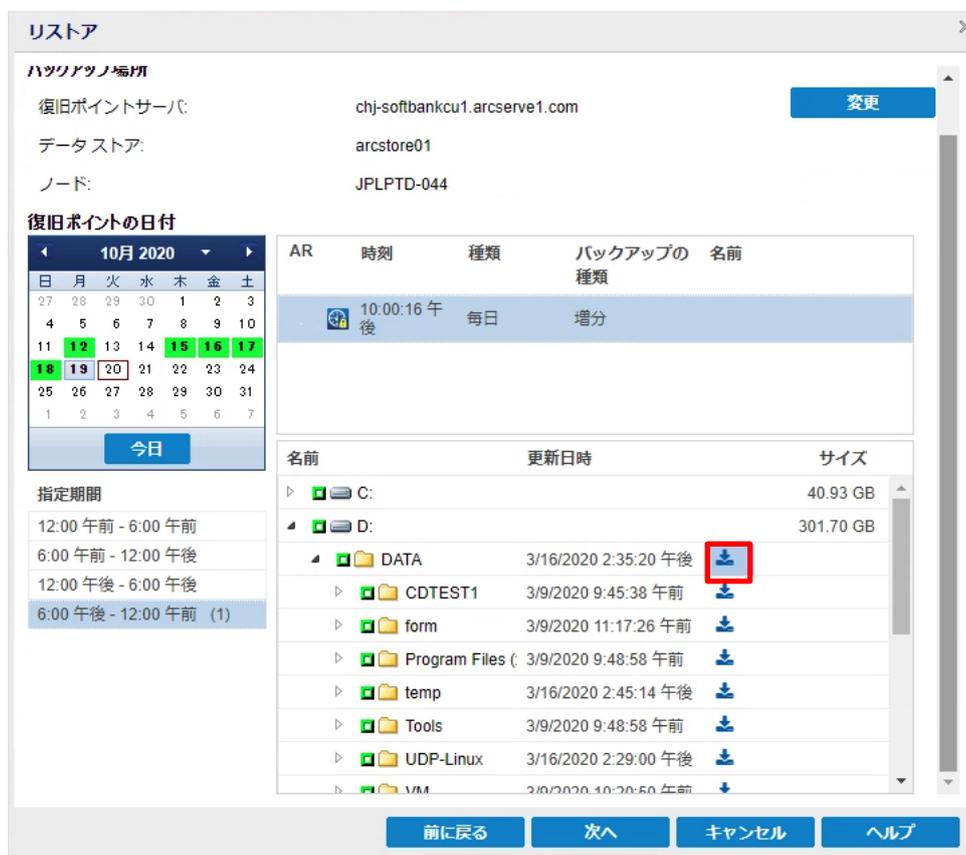
4. 復旧したいドライブを選択します。



5. 別ウィンドウにてパスワード入力を求められますので、バックアップジョブ作成時に指定したセッションパスワードを入力し『OK』を選択します。



6. Windows エージェントのリストア画面が表示されるので、右側の矢印アイコンをクリックすることでダウンロードを実行されます。



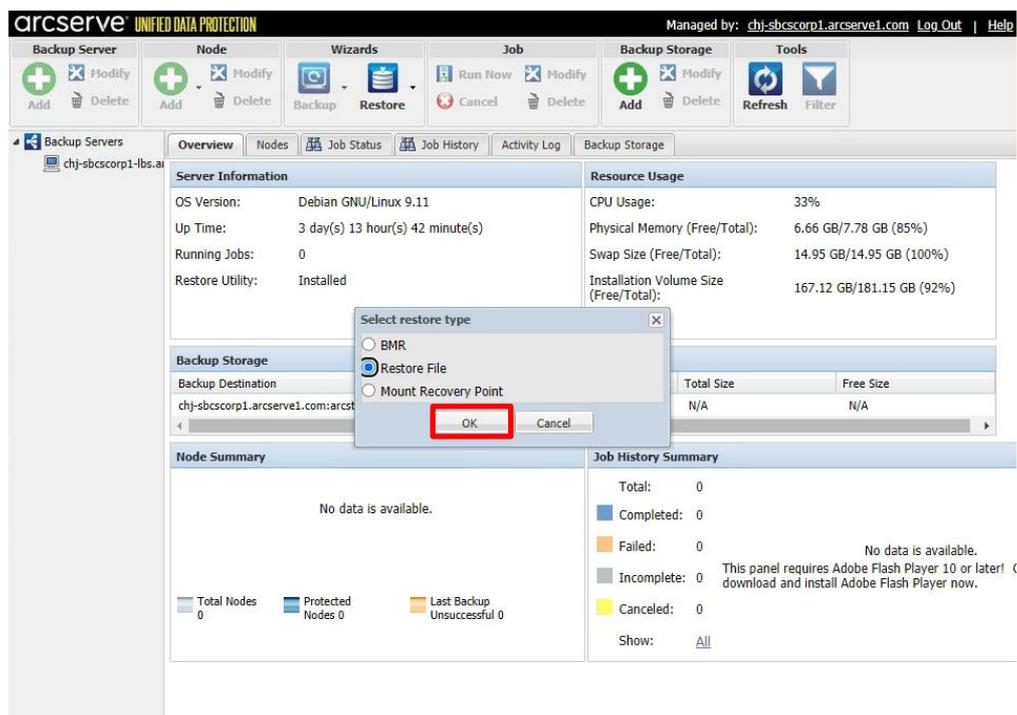
以上で Windows マシンのファイル/フォルダレベルリストアは完了となります。

6.2. ファイル/フォルダレベルリストア(Linux)

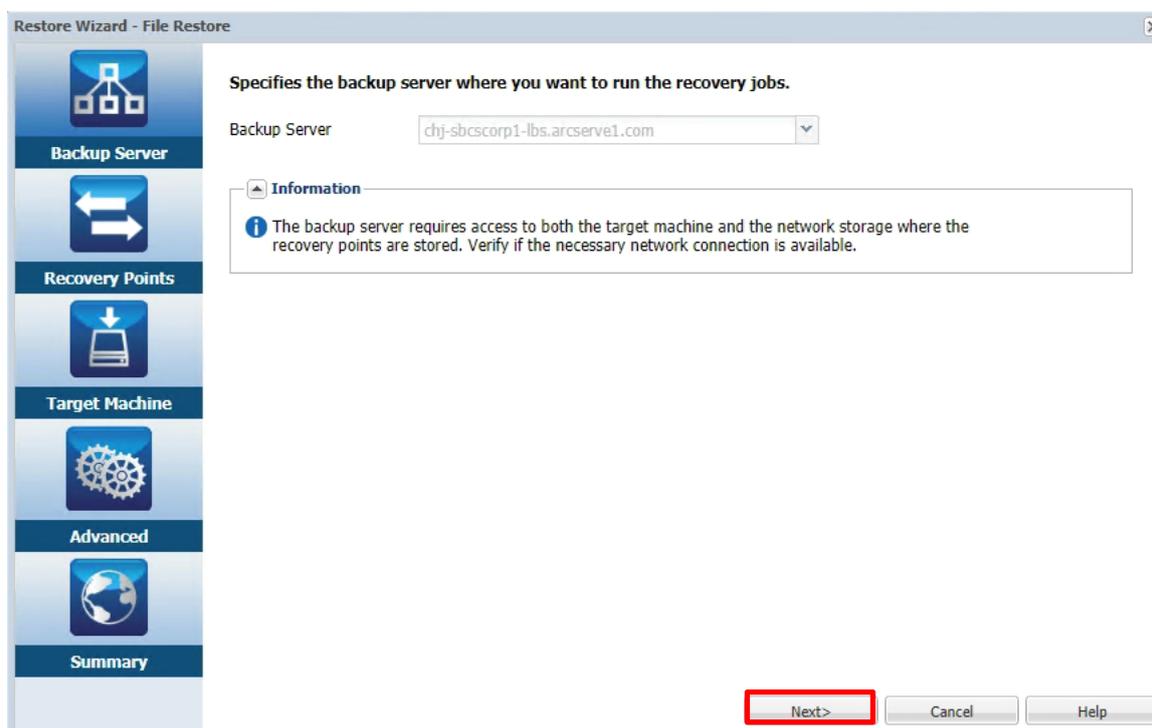
1. Arcserve UDP Cloud Hybrid コンソールから、『リソース』タブより、『Linux ノード』を選択し、リストア対象ノードを右クリックし、『リストア』を選択します。



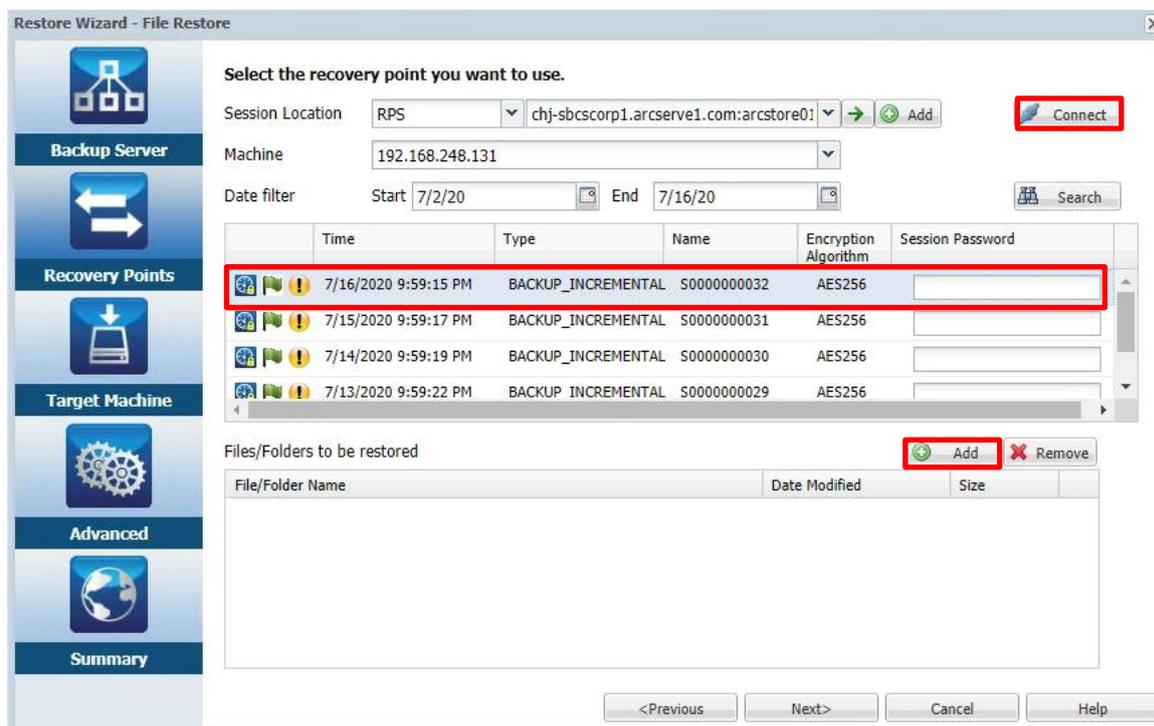
2. 別ウィンドウが立ち上がり、リストアタイプの選択画面が表示されるので、『Restore File』、もしくは『Mount Recovery Point』のいずれかを選択し、『OK』をクリックします。
※本手順では『Restore File』を選択します。



3. Backup Server の選択画面で『Next>』を選択します。

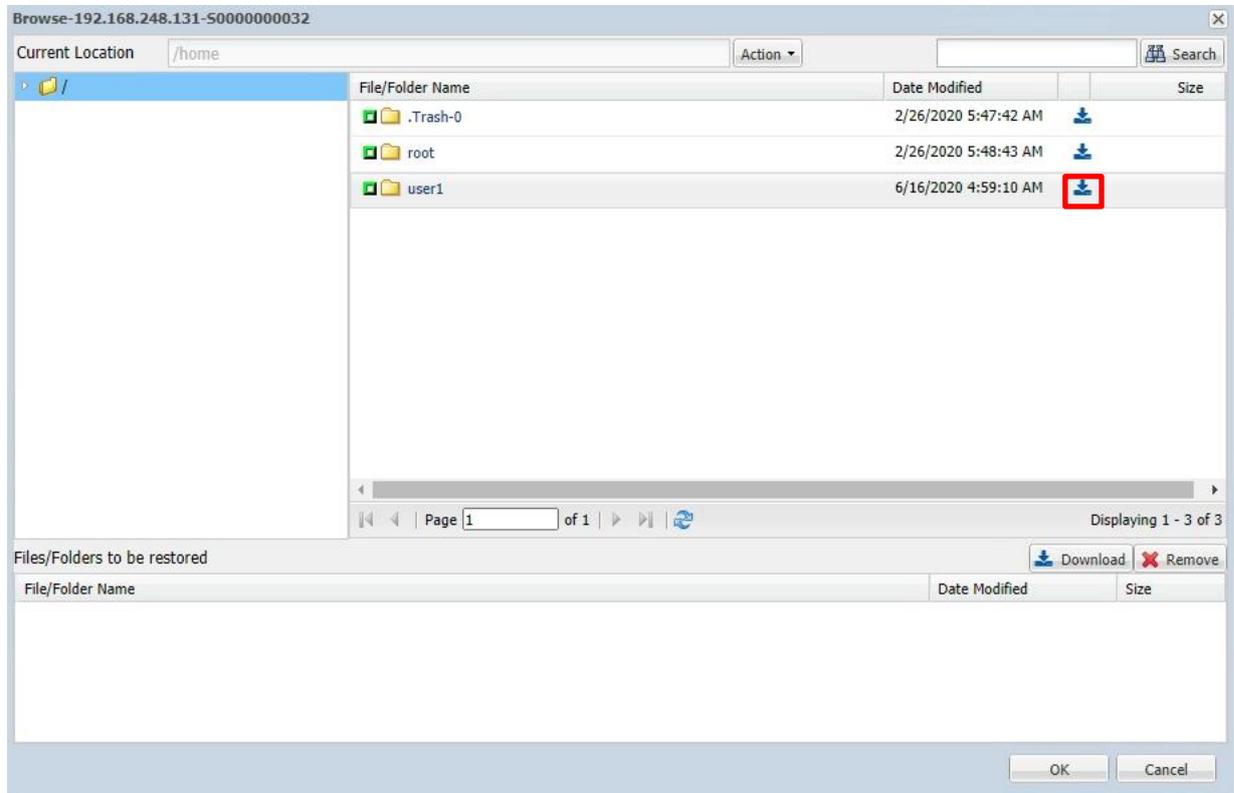


4. 画面左上部の『Connect』をクリックし、表示された復旧ポイント一覧から対象の復旧ポイントを選択し、バックアップジョブ作成時に設定したセッションパスワードを入力した後、『Add』を選択します。



6. リストア

5. 選択した復旧ポイントから、ダウンロードするファイル/フォルダを選択し、ダウンロードをすることでダウンロードが実行されます。

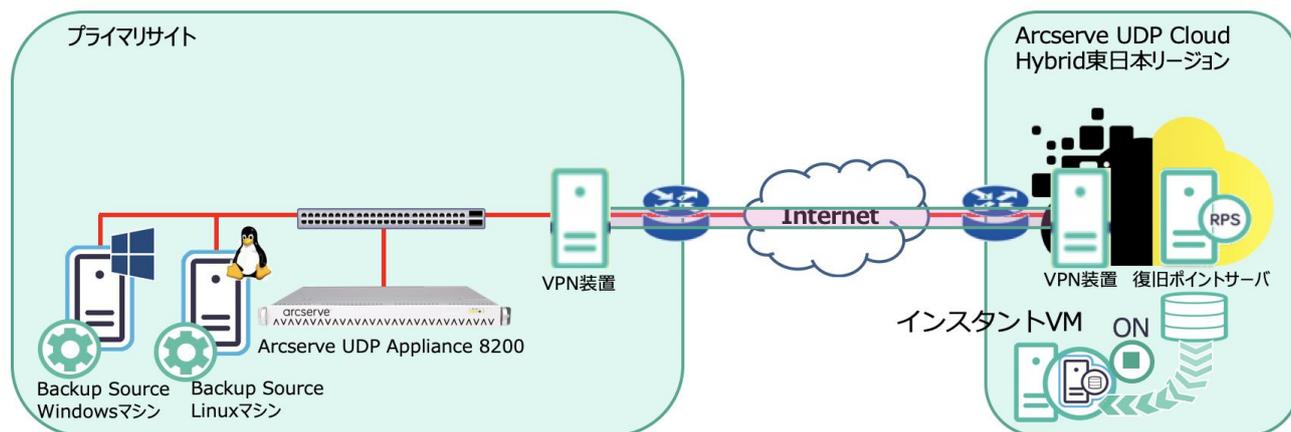


以上で Linux マシンのファイル/フォルダレベルリストアは完了となります。

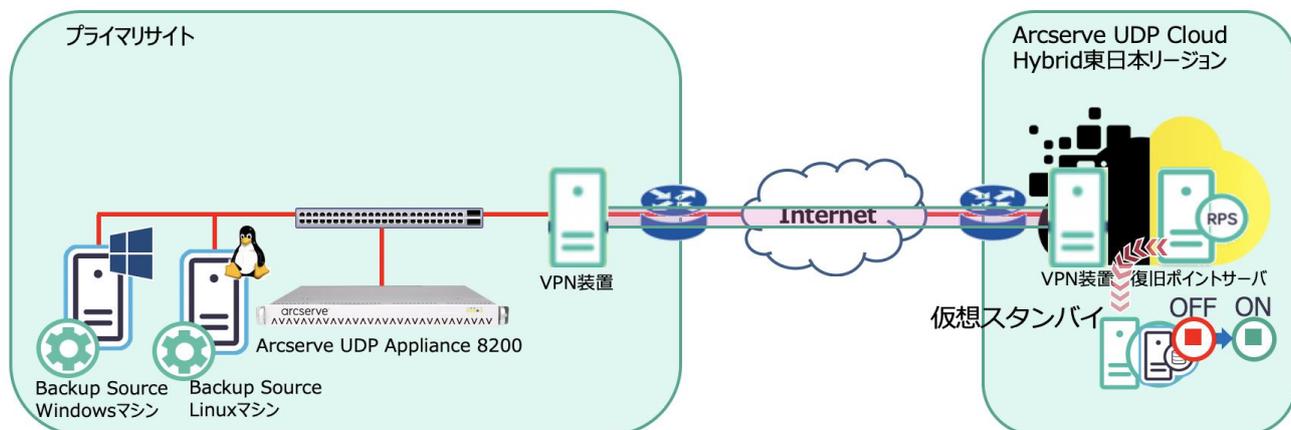
6.3. インスタント VM

Arcserve UDP Cloud Hybrid では、別途コンピュータリソースを契約することで、インスタント VM/仮想スタンバイ機能を利用し、Arcserve UDP Cloud Hybrid 環境上に代替仮想マシンを起動することが可能となります。

【インスタント VM】



【仮想スタンバイ】



以下の手順で、インスタント VM、仮想スタンバイの利用手順をご説明させていただきます。

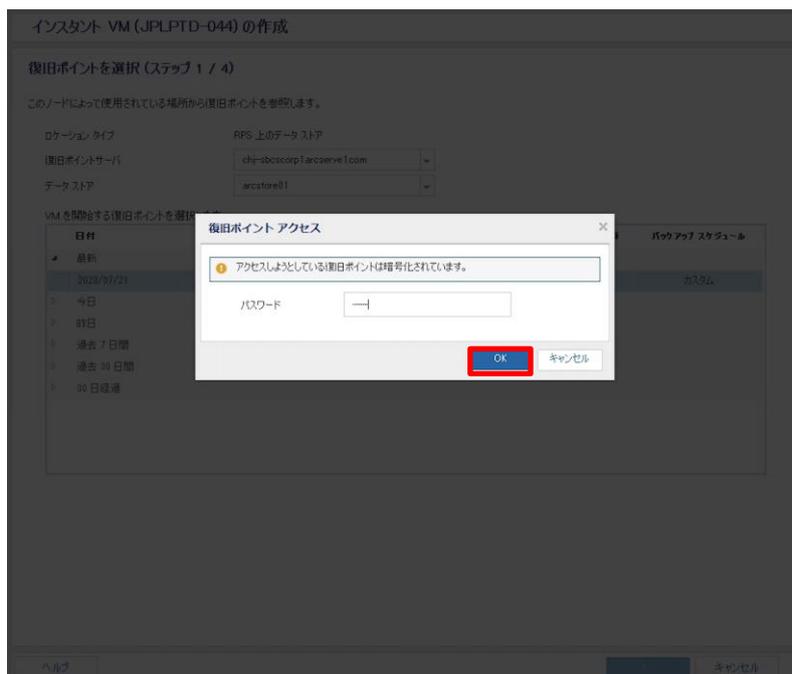
1. Arcserve UDP Cloud Hybrid コンソールから、『リソース』タブより、『ノード』→『すべてのノード』を選択し、対象のノードを右クリック、『インスタント VM の作成』をクリックします。



2. 別ウィンドウが立ち上がるので、復旧ポイントサーバ、データストアをプルダウンから選択し、インスタント VM を実行する復旧ポイントを選択、『次へ』をクリックします。



3. バックアップジョブ作成時に設定したパスワードを入力し、『OK』をクリックします。



4. ハイパーバイザーの種類を、プルダウンより『Microsoft Hyper-V』を選択し、『追加』をクリックします。

別ウィンドウが立ち上がるので、Arcserve から送信される『Arcserve UDP Cloud Hybrid サービス接続情報のお知らせ』という件名のメールに記載されている情報を入力し、『OK』を選択後、前の画面で『次へ』をクリックします。

※Hyper-V ホスト名/IP アドレスには Arcserve UDP Cloud Hybrid コンソール URL の『https://』から『:8015/』の間の文字列を入力します。



5. 画面に表示される復旧サーバ要件を満たしていることを確認し、『次へ』をクリックします。

インスタント VM (JPLPTD-044) の作成

復旧サーバ (ステップ 3 / 4)

Hyper-V サーバ chj-sbcscorp1.arcserve1.com が自動的に復旧サーバとして選択されました。復旧サーバが以下の前提条件を満たしていることを確認してください。

- 1 x64 Windows 2008 R2 以上のバージョン。
- 2 エージェントがインストールされ、現在のコンソールによって管理される必要があります。

ヘルプ 前に戻る **次へ** キャンセル

6. 画面右側の『参照』をクリックし、VM ファイルフォルダを『F:¥VMStorage』を指定し、『OK』を選択後、『完了』をクリックします。

インスタント VM (JPLPTD-044) の作成

仮想マシン設定 (ステップ 4 / 4)

仮想マシンのハードウェアおよびゲストオペレーティングシステム環境を設定します。

VM 名: UEDPVM_JPLPTD-044

説明: [空欄]

VM ファイル フォルダ: 復旧サーバ上 (chj-sbcscorp1.arcserve1.com) **参照**

CPU 数: 2

メモリ サイズ: 512 MB (スライダー) 22766 MB 4096 MB (使用可能: 11442 MB)

ネットワーク アダプタ: [空欄]

ネットワーク: [空欄] 種類: [空欄] IP アドレス: [空欄] アクション: [空欄]

ソース マシンがアクティブな場合、仮想マシンとソース マシンを同じネットワークに接続しないでください。ホスト名が競合しているため、これにより予期せぬ問題が発生する可能性があります。

※ 詳細

- VM ファイル フォルダ容量のディスク空き容量のモニタ
- VM ファイル フォルダ容量が次の値を下回った場合にディスク空き容量の不足を警告 3 *
- ホスト名の変更

ヘルプ 前に戻る **完了** キャンセル

VM ファイル フォルダ

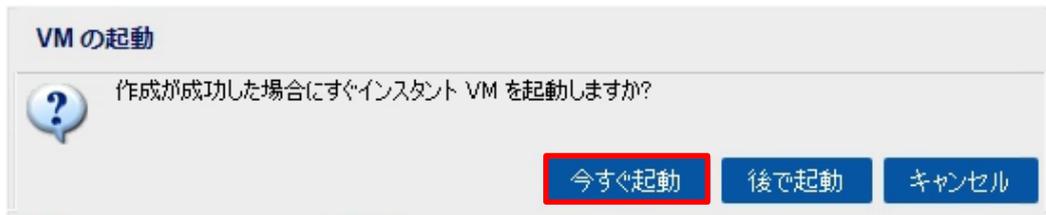
フォルダの選択

- C:¥
- SSD (E:¥)
- HDD (F:¥)
 - arcstore01
 - udpvm
 - VMStorage**
- AIO (G:¥)

フォルダ名: F:\VMStorage

OK キャンセル

7. 別ウィンドウが立ち上がるので、『今すぐ起動』、『後で起動』のいずれかを選択します。



以上でインスタント VM の設定は完了となります。

6.4. 仮想スタンバイ

1. Arcserve UDP Cloud Hybrid コンソールから、『リソース』タブより、『プラン』→『すべてのプラン』を選択し、対象のプランを選択します。

arcserve® UNIFIED DATA PROTECTION

ダッシュボード **リソース** ジョブ レポート ログ 設定

プラン: すべてのプラン

アクション | プランの追加

プラン名	合計	保護ノード			ステータス
		✓	!	✗	
<input type="checkbox"/> New Replicate Plan	0	0	0	0	✓ 作成済み
<input type="checkbox"/> レプリケート (31D_1W_1M_1C)	0	0	0	0	✓ 変更
<input checked="" type="checkbox"/> レプリケート (5D_1W_1M_1C)	2	2	0	0	✓ 作成済み
<input type="checkbox"/> レプリケート (7D_5W_12M_31C)	0	0	0	0	✓ 作成済み

2. 『タスクの追加』を選択し、タスクの種類のパルダウンメニューから『仮想スタンバイ』を選択します。

arcserve® UNIFIED DATA PROTECTION

ダッシュボード **リソース** ジョブ レポート ログ 設定

プランの変更

レプリケート (5D_1W_1M_1C) このプランを一時停止

タスク1: リモートで管理されている RPS からレプリケート ✓

タスク2

+ タスクの追加

製品のインストール

タスクの種類

- Arcserve Cloud へのレプリケート
- アシュアードリカバリ テスト
- リモートで管理されている RPS へのレプリケート
- レプリケート
- 仮想スタンバイ**

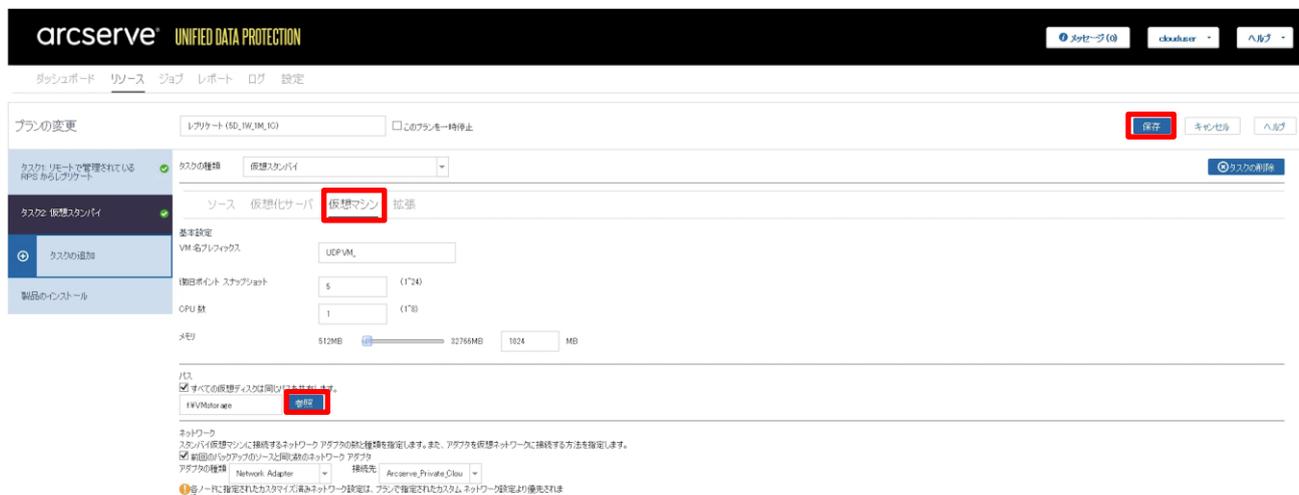
3. 『仮想化サーバ』タブを選択し、『仮想化の種類』のプルダウンメニューから『Hyper-V』を選択し、

Arcserve から送信される『Arcserve UDP Cloud Hybrid サービス接続情報のお知らせ』という件名のメールに記載されている情報をもとに、必要情報を入力し『接続』をクリックします。

※Hyper-V ホスト名には Arcserve UDP Cloud Hybrid コンソール URL の『https://』から『:8015/』の間の文字列を入力します。

The screenshot shows the Arcserve Unified Data Protection console interface. At the top, there is a navigation bar with the following items: ダッシュボード, リソース, ジョブ, レポート, ログ, 設定. Below this, the main content area is titled 'プランの変更' and shows a selected plan 'レプリケート (5D_1W_1M_1C)' with a checkbox for 'このプランを一時停止'. The left sidebar contains several menu items: 'タスク1: リモートで管理されている RPS からレプリケート' (checked), 'タスク2: 仮想スタンバイ', 'タスクの追加', and '製品のインストール'. The main configuration area is titled 'タスクの種類' and is set to '仮想スタンバイ'. Below this, there are four tabs: 'ソース', '仮想化サーバ' (highlighted with a red box), '仮想マシン', and '拡張'. The '仮想化サーバ' tab is active, showing the following configuration fields: 'サイト名' (Local Site), '仮想化の種類' (set to 'Hyper-V' and highlighted with a red box), 'Hyper-V ホスト名' (empty text field), 'ユーザー名' (clouduser), 'パスワード' (masked with dots), 'プロトコル' (radio buttons for HTTP and HTTPS, with HTTPS selected), and 'ポート' (8014). At the bottom of the configuration area, there is a blue button labeled '接続' (Connect) highlighted with a red box.

4. 『仮想マシン』タブを選択し、画面左側にある『参照』をクリックし、別ウィンドウが立ち上がるので『F:¥VMStorage』をパスとして指定し、『保存』をクリックします。

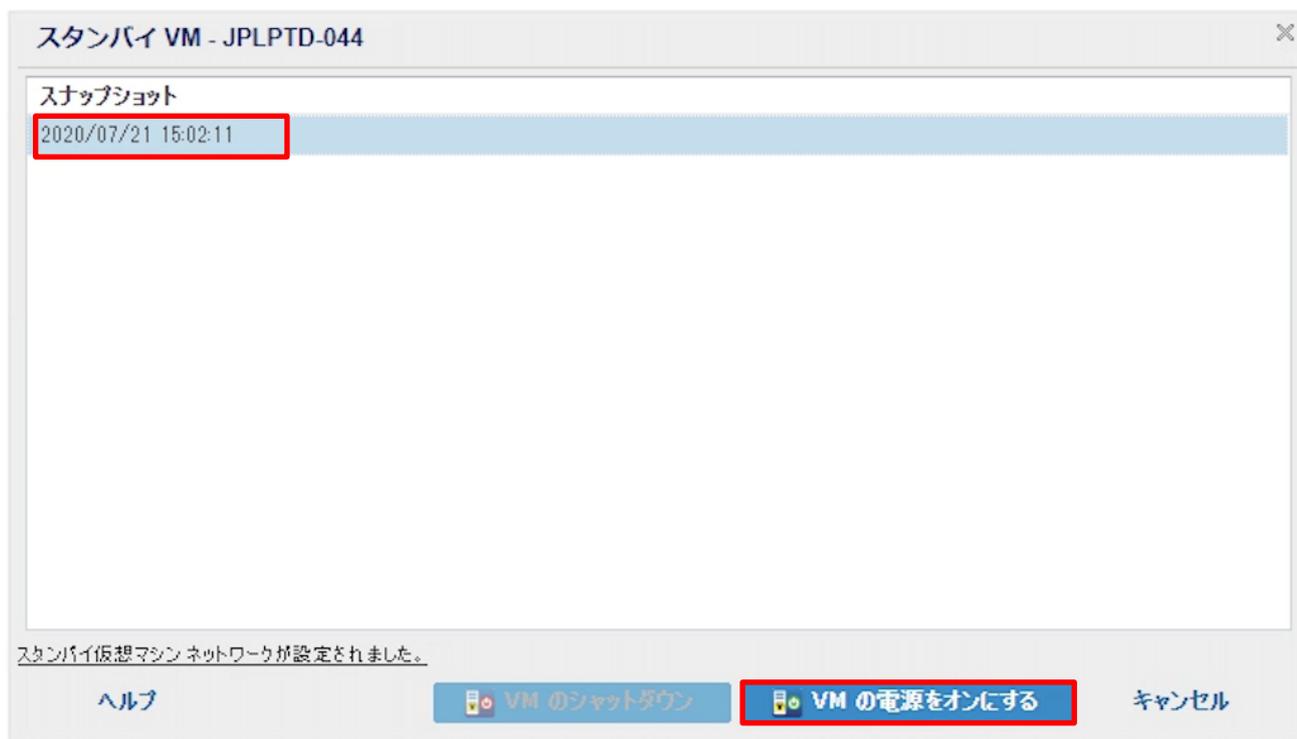


以上で仮想スタンバイプランの作成は完了となります。
以降は、仮想スタンバイ実行手順を記載させていただきます。

5. 『リソース』タブより、『ノード』→『すべてのノード』から対象のノードを右クリックし、『スタンバイ VM』を選択します。



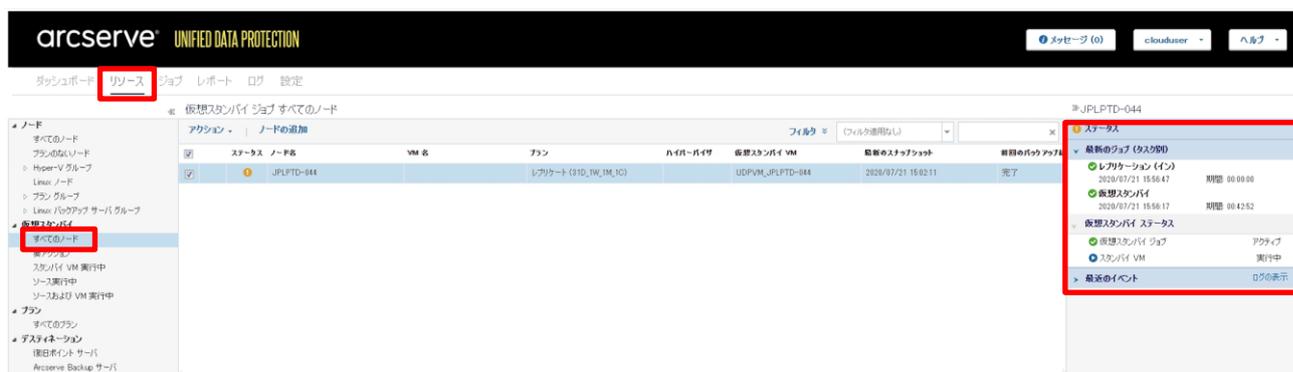
- 別ウィンドウが立ち上がるので、復旧したいスナップショットを選択し、『VM の電源をオンにする』をクリックします。



- VM 電源オン警告が出ますので『はい』を選択することで、仮想マシンの起動が開始されます。



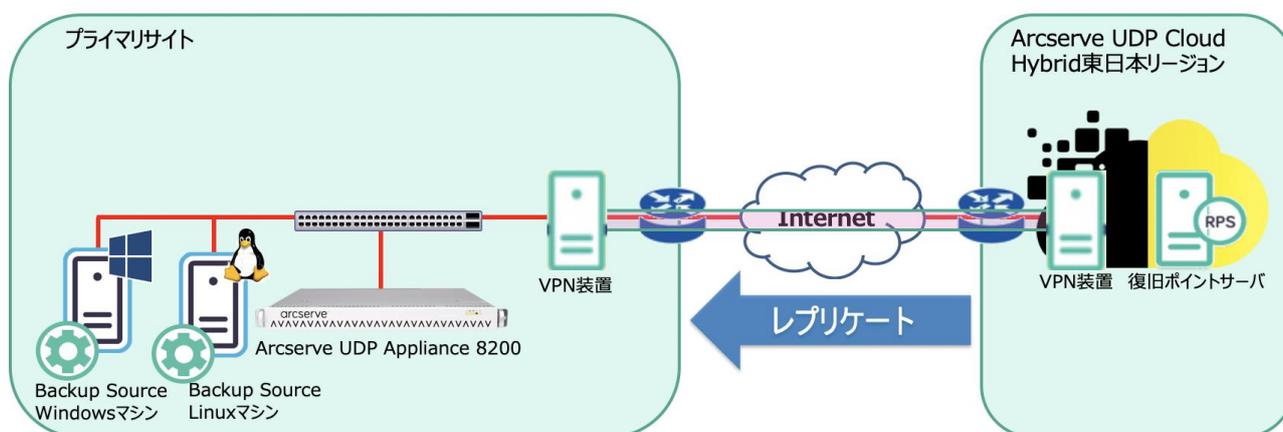
8. 『リソース』タブより、『仮想スタンバイ』→『すべてのノード』から対象のノードを選択することで、右のウィンドウにてステータスの確認ができます。



以上で仮想スタンバイの設定は完了となります。

6.5. Arcserve UDP Cloud Hybrid からのリバースレプリケート

プライマリサイトがダウンし、復旧ポイントサーバ(RPS)上のバックアップデータが破損した場合、Arcserve UDP Cloud Hybrid からバックアップデータをリバースレプリケートすることでデータの復旧が可能となります。



リバースレプリケートを実行するには以下の要件を満たしている必要があります。

- ・固定のグローバル IP アドレスを持っていること。
- ・Arcserve UDP Cloud Hybrid 環境から、プライマリサイトの RPS のホスト名を上記固定グローバル IP アドレスで解決できること。
- ・Arcserve UDP Cloud Hybrid からプライマリサイトの RPS、および Arcserve UDP コンソールに、TCP8014/8015 ポートでアクセスできること。

以降にて、プライマリサイト RPS 破損時の復旧手順をご説明させていただきます。

1. Arcserve UDP コンソールにログインし、『リソース』タブより、『デスティネーション』→『復旧ポイントサーバ』を選択し、RPS を右クリック、『データストアの追加』を選択します。



2. 下記 URL を参照し、データストアを作成します。

https://documentation.arcserve.com/Arcserve-UDP/Available/7.0/JPN/Bookshelf_Files/HTML/SolG/UDPSolnGuide/udp_add_ds.htm

ここで作成するデータストアはデデュープリケーション、および暗号化を有効にする必要があるため『暗号化の有効化』にチェックを入れ、『保存』をクリックします。

デデュープリケーションブロックサイズは Arcserve UDP Cloud Hybrid と同じブロックサイズ (東日本リージョンは 16KB、西日本リージョンは 64KB) を選択します。

データストアの作成

デデュープリケーション、圧縮、暗号化を有効化または無効化する設定は、データストアの作成後は変更できません。

復旧ポイントサーバ: ArcserveUDPA

データストア名:

データストアフォルダ: 参照

同時アクティブ ノードの制限:

デデュープリケーションの有効化

デデュープリケーション ブロックサイズ: デデュープリケーション テープバックアップ リストア

ハッシュ メモリの割り当て: MB (最大: 32661 MB, 最小: 1024 MB)

ハッシュ デスティネーションは SSD (Solid State Drive) 上にある

データ デスティネーション: 参照

インデックス デスティネーション: 参照

ハッシュ デスティネーション: 参照

圧縮を有効にする

圧縮タイプ: 標準 最大

暗号化の有効化

暗号化パスワード:

暗号化パスワードの確認:

デスティネーションの容量が上限に近づく、電子メールアラートを送信する

保存 キャンセル ヘルプ

3. 『リソース』タブより、『プラン』→『すべてのプラン』と選択し、『プランの追加』をクリックします。

arcserve® UNIFIED DATA PROTECTION

ダッシュボード **リソース** ジョブ レポート ログ 設定 | ハイ アベイラビリティ

プラン: すべてのプラン

アクション | **プランの追加**

プラン名	保護ノード			ステータス
	合計	✓	!	
Linux_Backup	1	1	0	✓ 変更: 成功 (1)
Win_Backup	1	1	0	✓ 変更: 成功 (1)

4. タスクの種類のパルダウンメニューから『リモートで管理されている RPS からのレプリケート』を選択します。

arcserve® UNIFIED DATA PROTECTION

ダッシュボード **リソース** ジョブ レポート ログ 設定 | ハイ アベイラビリティ

プランの追加

リバーシブルレプリケーション このプランを一時停止

タスク1

タスクの種類

タスク タイプの選択

- バックアップ: Office 365 Exchange Online
- バックアップ: Office 365 OneDrive
- バックアップ: Office 365 SharePoint Online
- バックアップ: UNC または NFS パス上のファイル
- バックアップ: エージェントベース Linux
- バックアップ: エージェントベース Windows
- バックアップ: ホストベース エージェントレス
- リモートで管理されている RPS からレプリケート**

タスクの追加

5. 『デスティネーション』タブより、データストアのプルダウンメニューから先程作成したデータストアを選択し、必要に応じてスケジュール、および拡張メニューの設定を行い、『保存』をクリックします。

※プライマリサイトの Arcserve UDP コンソールと復旧ポイントサーバが異なる IP アドレスを使用している場合は『サーバは NAT ルータの後方にあります』にチェックを入れてください。

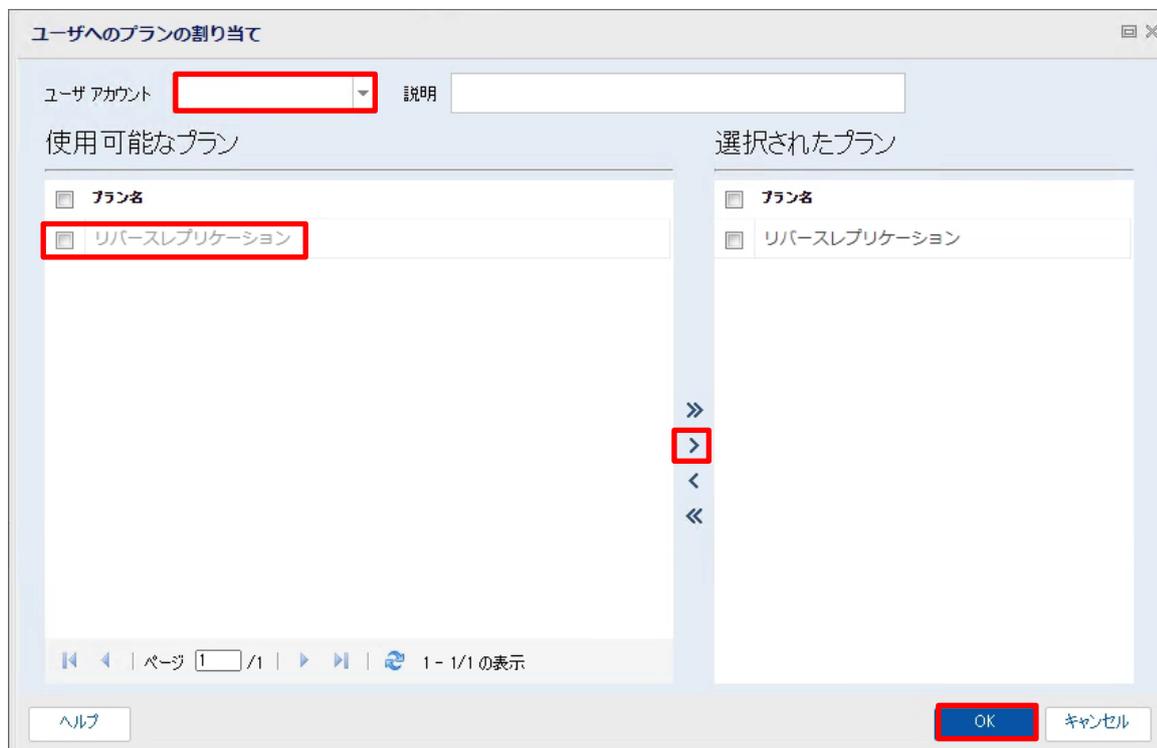
The screenshot shows the 'Add Plan' configuration page in the Arcserve Unified Data Protection console. The 'Destination' tab is selected, and the 'Data Store' dropdown is set to 'test-datasore'. The 'Save' button is highlighted with a red box.

6. 『設定』タブより、『共有プラン』を選択し、『追加』をクリックします。

The screenshot shows the 'Settings' page in the Arcserve Unified Data Protection console. The 'Shared Plan' option is selected in the left sidebar, and the 'Add' button is highlighted with a red box.

6. リストア

7. ユーザアカウントより、Administrator 以外のロール管理者権限をもつユーザをプルダウンより選択します。『使用可能なプラン』より作成したプランにチェックを入れ、画面中段の矢印マークを選択します。作成したプランが画面右側の『選択されたプラン』に移行したことを確認し、『OK』をクリックします。



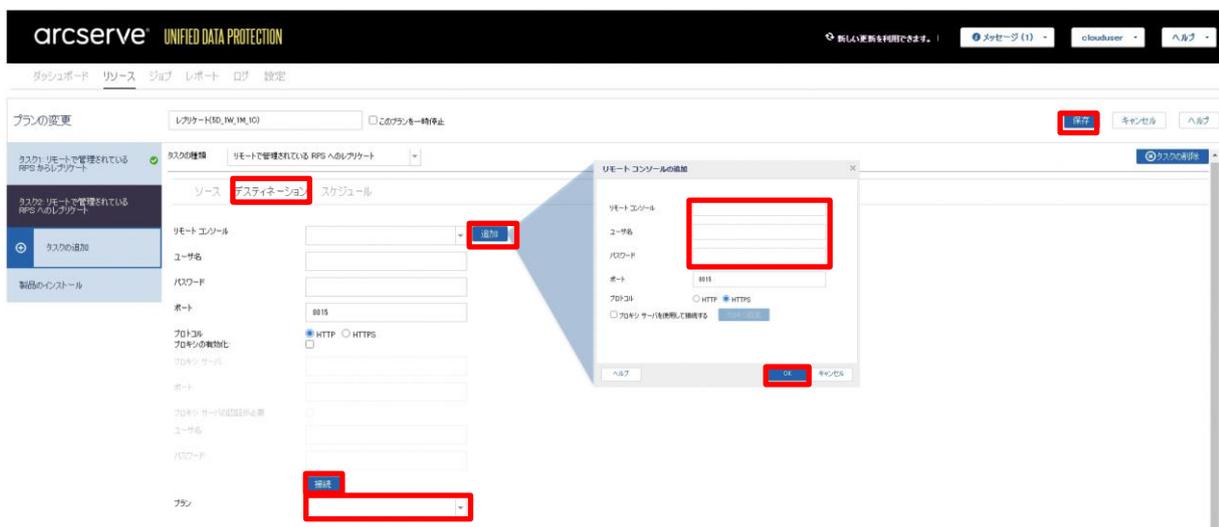
8. Arcserve UDP Cloud Hybrid コンソールにログインし、『リソース』タブより、『すべてのプラン』を選択し、対象のレプリケートプランを右クリックし、『変更』をクリックします。



9. 『タスクの追加』を選択し。タスクの種類のパルダウンメニューより、『リモートで管理されている RPS へのレプリケート』を選択します。



10. 『デスティネーション』タブにて、リモートコンソール横の『追加』をクリックし、別ウィンドウが立ち上がるので、プライマリサイト側の管理コンソール情報を入力し、『OK』をクリックします。
『接続』をクリックした後、プランのパルダウンメニューから、先程作成したプランを選択し、『保存』をクリックします。



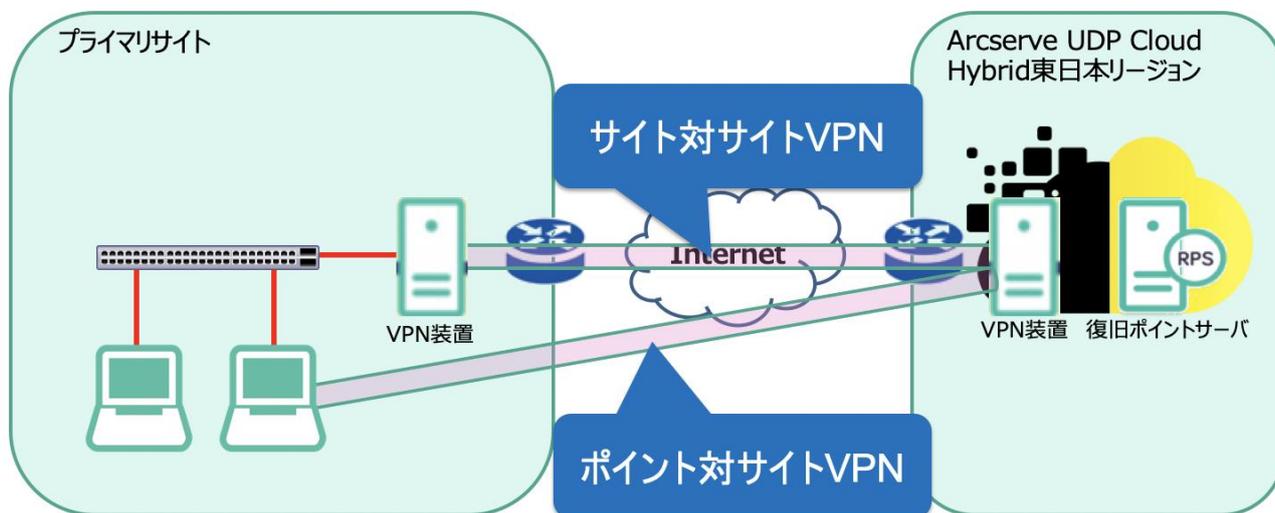
以上で、リバースレプリケート設定は完了となります。

設定後、Arcserve UDP Cloud Hybrid コンソールの『リソース』タブより、『ノード』→『すべてのノード』からレプリケート対象を右クリックし、『今すぐレプリケート』を選択することで、リバースレプリケートが実行されます。

7. その他の機能

7.1. Arcserve UDP Cloud Hybrid との VPN 接続

Arcserve UDP Cloud Hybrid への VPN 接続には『サイト対サイト』、『ポイント対サイト』がご利用いただけます。



サイト対サイト VPN 接続には Arcserve UDP Cloud Hybrid サービス開通後、Arcserve サポート経由で設定を行う必要があります。

下記 URL リンク先の Arcserve オンラインヘルプからフォームをダウンロードした後、必要情報を入力し、Arcserve サポートにご提出ください。

【Arcserve UDP Cloud Hybrid オンラインヘルプ】

https://documentation.arcserve.com/Arcserve-Cloud-Hybrid/Available/v1.1/JPN/HTML/UG/default.htm#How_to_access_your_DRaaS_instance_using_a_Site_to_Site_VPN.htm

ポイント対サイト VPN には OpenVPN クライアントのインストールが必要となります。

下記リンクより、OpenVPN をダウンロードし、インストールします

<https://openvpn.net/community-downloads/>

※Arcserve UDP Cloud Hybrid 上のハイパーバイザーを Hyper-V マネージャーで管理できる端末は Windows10、Windows Server 2016 のみとなります。

OpenVPN インストール後の設定手順に関しては、下記 Arcserve UDP Cloud Hybrid スタートアップガイドをご参照ください。

<https://www.arcserve.com/wp-content/uploads/2019/09/uch-startup-guide1.pdf>

7.2. アシュアードリカバリ

Arcserve UDP Cloud Hybrid では、レプリケートされたバックアップデータが破損していないか自動で確認するアシュアードリカバリ機能が利用できます。

アシュアードリカバリ機能には、バックアップデータを仮想ディスクとしてマウントし、中身をチェックする『インスタント仮想ディスク方式』と、インスタント VM を使用し、仮想マシンを立ち上げて中身をチェックする『インスタント VM 方式』があり、対象の OS によって選択できるものが変わってきます。また、Arcserve UDP Cloud Hybrid 上でインスタント VM 方式のアシュアードリカバリを使用するには、別途コンピュートリソースの契約が必要となります。

インスタント仮想ディスク方式



インスタントVM方式



【対象別アシュアードリカバリ対応】

Windows	Microsoft Office 365	Linux
インスタント仮想ディスク方式 インスタント VM 方式	インスタント仮想ディスク方式	インスタントVM方式

7. その他の機能

1. Arcserve UDP Cloud Hybrid コンソールにログインし、『リソース』タブより、『プラン』→『すべてのプラン』を選択し、対象のプランを右クリック、『変更』をクリックします。

arcserve® UNIFIED DATA PROTECTION

ダッシュボード **リソース** ジョブ レポート ログ 設定

※ プラン: すべてのプラン

アクション | プランの追加

プラン名	保護ノード				ステータス
	合計	✓	!	✗	
<input type="checkbox"/> レプリケート(31D_1W_1M_1C)	0	0	0	0	✓ 変更
<input checked="" type="checkbox"/> レプリケート(5D_1W_1M_1C)	?	?	0	0	✓ 変更: 成功 (2)
<input type="checkbox"/> レプリケート(7D_5W_12M_31C)	0	0	0	0	✓ 作成済み

変更
コピー
削除
今すぐ展開
一時停止
今すぐレプリケート

2. 『タスクの追加』を選択し、タスクの種類のパルダウンメニューより『アシュアードリカバリテスト』を選択します。

arcserve® UNIFIED DATA PROTECTION

ダッシュボード **リソース** ジョブ レポート ログ 設定

プランの変更

レプリケート(5D_1W_1M_1C) このプランを一時停止

タスク1: リモートで管理されている RPS からレプリケート ✓

タスク2

タスクの種類

タスク タイプの選択

- Arcserve Cloud へのレプリケート
- アシュアードリカバリテスト**
- リモートで管理されている RPS へのレプリケート
- レプリケート
- 仮想スタンバイ

+

タスクの追加

製品のインストール

3. 『ソース』タブより、アシュアードリカバリテストの復旧ポイントソースを確認し、アシュアードリカバリ実行のタイミングを設定します。
 ※『最新の復旧ポイント』を選択した場合、バックアップジョブ完了毎にアシュアードリカバリが実行されます。



arcserve® UNIFIED DATA PROTECTION

ダッシュボード リソース ジョブ レポート ログ 設定

プランの変更 レプリケート(5D_1W_1M_1C) このプランを一時停止

タスク1: リモートで管理されている RPS からレプリケート タスクの種類 アシュアードリカバリ テスト

タスク2: アシュアード リカバリ テスト

ソース テスト 設定 スケジュール 拡張

アシュアードリカバリ テストの復旧ポイント ソース

タスク1: リモートで管理されている RPS からレプリケート のテスト

タイプ	説明	日	月	火	水	木	金	土
<input type="checkbox"/>	日次バックアップ							
<input type="checkbox"/>	週次バックアップ							
<input type="checkbox"/>	月次バックアップ							
<input type="checkbox"/>	最新の復旧ポイント							

4. 『テスト設定』タブより、テストタイプを選択します。対応するテストタイプに関しては【[対象別アシュアードリカバリ対応](#)】をご参照ください。
 必要情報を入力の後、任意でスケジュール、拡張設定を完了したら【保存】をクリックします。



arcserve® UNIFIED DATA PROTECTION

ダッシュボード リソース ジョブ レポート ログ 設定

プランの変更 レプリケート(5D_1W_1M_1C) このプランを一時停止

タスク1: リモートで管理されている RPS からレプリケート タスクの種類 アシュアードリカバリ テスト

タスク2: アシュアード リカバリ テスト

ソース **テスト 設定** スケジュール 拡張

サイト名 ローカル サイト

テストタイプ インスタント VM インスタント保護ディスク

Windows プロキシ サーバ 追加

保護ヘッド ディスク ファイ ル フォルダ

以上でアシュアードリカバリ設定は完了となります。

7.3. Microsoft Office 365 のバックアップ

Arcserve UDP Cloud Hybrid では下記リンク先の Arcserve UDP と同様の手順にて Microsoft Office 365 のバックアップ先として利用することができます。

https://documentation.arcserve.com/Arcserve-Cloud-Hybrid/Available/v1.1/JPN/HTML/UG/default.htm#Off_365.htm

8. 総評

Arcserve UDP Cloud Hybrid は簡単な手順でオンプレミス環境の Arcserve UDP に保存されたバックアップデータのレプリケートを実行することができます。

コンソール画面も、Arcserve UDP の作りに非常に似た作りとなっており、既存ユーザーには慣れ親しんだコンソール画面にてオペレーションが可能となります。

クラウドサービスですので、Arcserve UDP Cloud Hybrid のインフラ運用はメーカー対応となることから、DR 環境構築による運用負荷の増大も発生しません。

Arcserve UDP をご利用されている方にとって、非常に簡単に DR 環境を構築できるサービスであると言えます。